

海外安全対策情報（2020年4月～6月）

1 社会・治安情勢

(1) カラチ市

ア 2013年9月以降、準軍組織レンジャー及びシンド州警察がテロ組織を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模なテロ等の阻止を図る通称「カラチ掃討作戦」を現在も継続しており、テロ、殺人の発生件数は減少傾向にあったが、6月に証券取引所に対し、バロチスタン解放軍（BLA）による襲撃事件が発生し、同組織が中国権益などに対する攻撃の継続を表明した。また、依然として強盗、窃盗等の街頭犯罪が発生しており警戒を要する。

イ 当期4～6月は、テロ発生件数3（1）件（以下カッコ内は前年同期）、死者数9（2）名、負傷者数16（3）名であった。

(2) バロチスタン州

ア パキスタンからの独立や同州の自治拡大を目的とする民族主義武装集団等による反政府活動や治安機関へのテロ攻撃が行われている。また、中パ経済回廊（CPEC）事業や外国人投資家に対するテロの脅威が存在する。州都クエッタ市において当該期間（4～6月）はテロが発生しなかったが、宗教過激派等による異宗派、移民、治安機関を対象とした標的殺人や爆弾テロの脅威は存在する。

イ 当期4～6月は、テロ発生件数6（27）件、死者数17（82）名、負傷者6（148）名であった。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人関連事案

無し

(2) 犯罪統計

カラチ市警察が発表した当期4～6月の犯罪統計によれば、強盗件数が増加するなど市民に身近な街頭犯罪の発生件数は依然として発生しているため、防犯対策など十分な注意が必要である。

主な犯罪種別の内訳は以下のとおり。

- ・ 殺人 92件（106件）
- ・ 身代金目的誘拐 6件（2件）
- ・ 強盗 816件（763件）
- ・ 強姦性交等 33件（48件）
- ・ 薬物所持 1,317件（1,056件）
- ・ 武器不法所持 932件（2,173件）

(3) 銃器使用による強盗（ガンポイント）

当地では強盗に注意する必要がある。カラチ市における強盗の形態は、バイクに乗った2人組が、停止中の車両や歩行者を標的とする場合がある。また、銀行、両替商を利用後に多額の現金を所持した状態で被害に遭う場合もあり、注意が必要である。

3 主な治安関連事案（報道ベース）

（1） シンド州カラチ市

- ① 4月3日、リアクトバードにおいて、感染症防止のために金曜の集団祈禱を規制する警察官に対し、暴行を加えた容疑で礼拝導師と他6人を逮捕した。
- ② 4月13日、クリフトンのアップーギズリにおいて、強盗犯4名が25歳女性宅から現金、携帯電話等を奪い、強姦した後に殺害した。26日、警察は4人を逮捕した。
- ③ 4月19日、警察はグルスタニジャホール地区に潜伏していた4名の過激派を逮捕し、武器及び爆発物を押収した。同人らはインド亜大陸のアルカイダ（AQIS）と関係があるという。
- ④ 5月14日、JUI-F活動家がSITE地区の自宅付近において、バイクに乗った男から複数の銃弾を受けて重傷を負った。
- ⑤ 感染症対策としてシンド州政府は宗教的な集会や行列参加を禁止していたところ、参加者が標準運用手順（SOP）に従うことを条件に制限を緩和したが5月15日、シンド州各地（カラチ、シカルプル、ジャコババード、ラルカナ等）で行われたヨーメアリ（シーア派の宗教行事）の行進において、SOP違反で200人以上が逮捕された。
- ⑥ 5月22日、ラホールを離陸したパキスタン国際航空 PK8303 便が、ジンナー国際空港近郊において、技術的トラブルにより住宅地に墜落し、乗員乗客99人のうち2名を除いて全員死亡した。
- ⑦ 6月7日、リヤリにおいて、古い5階建て住居ビルが崩壊し、22人が死亡した。
- ⑧ 6月10日、グルスタニジャホールにおいて、手榴弾により治安部隊1人負傷、同車両がわずかに損傷した。
- ⑨ 6月19日、リアクトバードにおいて、治安部隊車両近くに手榴弾が投げられ、付近にいた市民1人が死亡、治安部隊員1人を含む8人が負傷した。シンド革命軍（SRA）が犯行声明を出した。
- ⑩ 6月29日、サダル地区パキスタン証券取引所においてテロリスト4人が手榴弾を投擲し、警備員らに発砲、治安部隊がテロリスト4人を殺害、警官1人と警備員3人が死亡した。バロチスタン解放軍（BLA）が犯行声明を出した。

（2） シンド州（カラチ市を除く）

- ① 6月1日、ラルカナにおいて、製氷工場の近くに駐輪された自転車に設置された爆発装置が爆発したが、負傷者はいなかった。

- ② 6月19日、ゴートキにおいて治安部隊車両に対する手榴弾攻撃により、治安部隊員2人を含む3人が死亡した。同日、ラルカナにおいても手榴弾により治安部隊員1人が負傷した。シンド革命軍（SRA）が犯行声明を出した。

（3）バロチスタン州

- ① 4月6日、クエッタにおいて、若手の医師及び医療補助員ら100名以上が、感染症から身を守るための安全器具を政府が自身らに提供しないことに抗議したため、同州内に課されている刑法第144条（封鎖）違反で逮捕された。
- ② 4月10日、アフガニスタン国境近くのキラ・アブドゥッラーにおいて路肩爆弾の爆発によりパキスタン軍の兵士2人が死亡、2人が負傷した。
- ③ 4月26日、パンジグルにおいて、治安機関の作戦中に銃撃戦の末、禁止団体に属する過激派4人が死亡した。
- ④ 5月7日、Khuzdarにおいてテロ対策局は、手榴弾を含む爆発物を所持した容疑者を逮捕してテロを未然に阻止した。
- ⑤ 5月8日、ケチにおける爆発により、警官ら6人が死亡、1人が負傷した。イランとの国境から約14キロメートルの山岳地帯をパトロール中、遠隔操作による爆発を受けた。
- ⑥ 5月18日の夜、Bolanで辺境警備隊員6人が車両移動中、爆発により死亡した。また、ケチで過激派との交戦中に兵士が死亡した。非合法組織である統一バロチ軍（United Baloch Army）が犯行声明を出した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当期1～3月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は1件発生した。2017年5月にはバロチスタン州クエッタ市において中国人2名が誘拐・殺害されている。また、2018年2月にカラチ市内において邦人が拳銃使用の強要被害に遭っており、誘拐事案に発展するおそれがあった。

当地では誘拐は資金獲得の手段としてテロ組織が犯行に及ぶ場合や、犯罪組織等が誘拐した被害者を売り渡す場合もある。犯罪者に隙を与えないよう目立たず、行動を予測されないようにする日常生活上の注意が必要である。

5 新型コロナウイルス感染拡大に伴う感染症危険情報の発出（5月22日付）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、日本としては既に100の国・地域を感染症危険情報レベル3（渡航は止めてください（渡航中止勧告））に、当地を含むその他全世界を同レベル2（不要不急の渡航は止めてください）に指定していたが、今般、当地を含む一部の国について、感染症危険情報レベルをレベル3（渡航は止めてください（渡航中止勧告））に引き上げた。感染の地理的拡大の可能性に注意し、状況が悪化する可能性も念頭に、出入国規制や検疫措置の強化に関する最新情報を確認するとともに、

感染予防に万全を期していただきたい。

6 日本企業の安全に関する諸問題

(1) 渡航の際の留意事項

当地では治安機関に対するテロ攻撃に警戒を強めている状況にある上、バローチ民族主義のテロ組織が中国権益に対しテロ攻撃を継続するおそれがある。また、2019年2月には、印パ間の緊張に伴い、国内空港の閉鎖及び商用便の運休・時間変更等、邦人の航空機利用に大幅な影響が出た。同年8月には、印政府によるジャンム・カシミール州に特別な地位を認める憲法370条の廃止により緊張状態が継続している。

よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

(2) 駐在される場合

当地ではテロの危険があるほか、拳銃使用の強盗等の街頭犯罪も発生している。また、テロ集団等による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け安全対策マニュアル」等各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。

(以上)